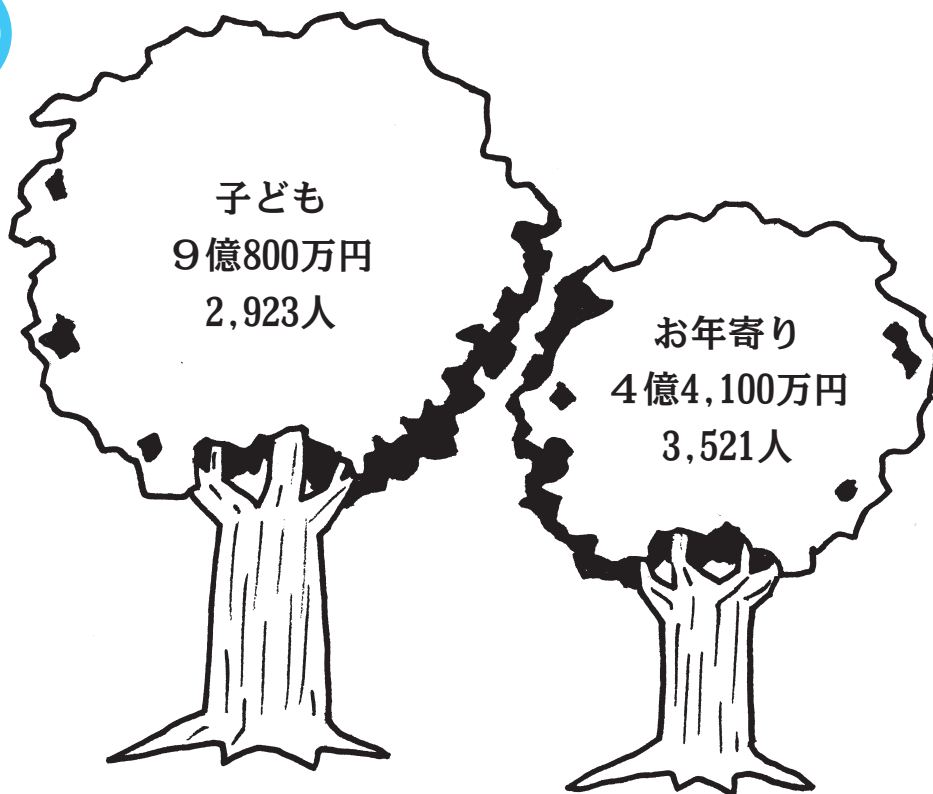


子供とお年寄りに使ったお金

平成13年度に使ったお金のうち「子ども」は生まれてから中学校を卒業するまで（15歳まで）と、「お年寄り」は各分野で高齢者として分類しているものを集計すると次のようになります。

よく「お年寄りばかりにお金を使って」って話を聞くけどほんと？



人数は、平成14年3月31日現在の住民基本台帳人口で、子どもは0～15歳、お年寄りは65歳以上の人口です。

「子ども」や「お年寄り」に使ったお金といっても、いろいろな見方がありますが、上の金額は一般会計で使ったお金を下の考え方で積み上げたものです。



えっ！
逆じゃない。

「子ども」

乳幼児の医療費助成や保育所（園）・小学校・中学校に使ったお金などは、全て子どものためのお金とし、少年団活動で総合体育館やプールを利用した場合は、利用した分だけ施設の維持管理費用を子どもに使ったこととしました。

また、国民健康保険特別会計や公立芽室病院に繰り出しているお金は、それぞれ0歳から15歳までの子どもが受診した割合で算出しました。

「お年寄り」

高齢者に対する各種サービス（食事サービスや除雪サービスなど）や敬老祝金などは、全て高齢者のためのお金とし、老人クラブの例会を地域福祉館で行った場合などは、利用した分だけ施設の維持管理費用を高齢者に使ったこととしました。

また、老人保健特別会計や介護保険特別会計に繰り出しているお金は、全て高齢者に使ったお金としました。